



再発見

四日市市

〈あすなろう鉄道の旅〉

小さな車両で小さな電車旅
旧東海道沿いの町を訪ねる

ふるさと再発見の第二十五回目は、四日市あすなろう鉄道の旅です。

四日市市の中心部と、内部地区(内部線)および四郷地区(八王子線)を結び、全9駅からなる、全長約7キロメートルの短い路線。

線路幅762ミリメートルの、全国的にも珍しい特殊狭軌線(ナローゲージ)で、

大正元(1912)年「近鉄内部・八王子線」として開業、2015年からは「四日市あすなろう鉄道」となり再出発し、市民の足として親しまれています。

今回は、1日フリーきっぷを使って、内部線・沿線の町を紹介していきます。

今回は、1日フリーきっぷを使って、内部線・沿線の町を紹介していきます。

昔の旅人も参拝した 東海道沿いの神社を訪ねる

電車旅の出発点は、四日市あすなろう鉄道「四日市」駅です。南へ向かう内部線に乗車し、途中下車しながら沿線の町を訪ねます。このナローゲージの路線は全国でもこの電車を合わせて3路線しか

残っていません。小さくて愛らしい車両に乗りこむと、どこかノスタルジックな雰囲気、今回の旅への期待が高まります。

最初の降車駅は、内部線上下と八王子線がすれ違う、鉄道ファンにも人気の「日永」駅です。駅を降り線路沿いに戻りながら歩くと、こんもりとした緑が見えます。突き当たりを右に曲がり、最初の信



日永駅で合流する八王子線の列車



View Point 日永駅では内部線上下、八王子線が交差し車両の迫力あるすれ違いが見られます。



茅の輪くぐりで有名な大宮神明社※



天照大御神を主祭神として祀る日永神社

号を左へ折れると「大宮神明社」があり、石灯籠が並ぶ静かな参道を進むと、立派な拝殿が建っています。ここでは、毎年6月30日の夜に有名な「那護志大祓」が行われます。高さ4メートルの茅の輪をくぐると夏負けしないとわれ、この日は多くの参拝客で大変な賑わいを見せています。

来た道に戻り、「日永」駅から乗車して次の「南日永」駅へ向かいます。「南日永」駅を降りると、目の前に「日永神社」がありました。この神社には、以前は拝殿の右

側に松の老木があり、国難があると樹皮が変色したという言い伝えがあります。東海道を行く多くの人が参拝に立ち寄ったとのこと。昔の人にならい拝殿で手を合わせ、ここから東海道を歩きます。

旧東海道をひと駅歩き 江戸時代の旅情に浸る

東海道を少し歩くと、右側に「日永一里塚跡石標」があります。一里塚跡とは、江戸時代の主な街道に二里(約4キロメートル)ごとに築かれたもので、旅人の目安

来た道に戻り、再び「追分」駅から終点の「内部」駅まで電車で向かいます。内部駅を降り、広い道路へ出たら、左手に見える陸橋を、国道1号線をまたぐように渡ります。さらに内部橋を渡り、民家が立ち並ぶ道を左斜め方向に入っていきます。道なりに歩いていくと、電柱に付けられた「杖衝坂」への案内板が見えます。案内に従い進むと、曲がりくねった急な坂道が現れました。大昔に日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が東征の帰路、病になり剣を杖にして登ったことから、この名が付いたといわれます。東海道では、箱根、

終点の「内部」駅を降り 歴史ある地区を歩く

人々が、遠くの伊勢神宮を拜むための遷拝鳥居として建てられました。伊勢神宮がいに重んじられていたかが、うかがい知れる史跡です。ここには湧き水が出る水屋もあり、地元の人が水を汲みにやってきました。今も昔も人々にとって、大切な場所であり続けています。



空へのびる名残松



旧東海道の面影を残す日永一里塚跡石標

となっていました。今は、民家の間に塚跡を示す石柱が立ち、往事を偲ばせています。さらに進むと視線の先に、「名残松」が見えてきます。昔このあたりは街道の両側に低い土手が築かれ、その上に松並木がありました。唯一残ったその姿を見ると、東海道の往事の賑わいが目に浮かぶようです。二本松を後にし、そのまま歩いていくと、右手に「泊」駅への道案内があります。再び電車に乗って、次の目的



静かな小山の上に建つ采女八幡社

来た坂道を下り、杖衝坂への案内板の場所まで戻ります。ここを左折して少し進むと、国道1号線をくぐるトンネルが現れます。トンネルの向こうには「采女八幡社」があります。緑が生い茂る小山のふもとまで行くと、「采女八幡社」の参道入口がありました。小山の上にある拝殿

鈴鹿峠に次ぐ難所のひとつ。舗装された坂道をゆくり登っていくと、坂の途中に芭蕉がこの坂で落馬したことを詠んだ「芭蕉の句碑」もありました。東西交通の要所として、多くの人が行き交ったこの地の歴史を感じさせます。

地へと向かいます。

遠い伊勢神宮を拜む 東海道と伊勢街道の分かれ道

次に訪ねるのは、「日永の追分」です。ひと駅先の「追分」駅で降り、右方向へと進みます。踏み切りを越えて少し歩くと、大きな鳥居が目に入ります。鳥居は道が



常夜燈や道標もある日永の追分



湧き水が出る水屋



ちょっと足を延ばして 東海道日永郷土資料館

(とうかいどうひながきょうどしりょうかん)

「泊」駅と「追分」駅の間、旧東海道沿いに郷土資料館があります。日永うちわなど地域の名品や、街道に関わるさまざまな資料を、古代から昭和30年代までの時代ごと、テーマごとに展示しています。

開館は

- ・水曜日：午前のみ9時～12時
- ・土曜日：終日9時～16時
- ・日曜日：午前のみ9時～12時



問 四日市観光協会 TEL 059-357-0381

へは、参道の石段を上ります。この神社は鎌倉時代に創建され、石碑には実に多くの御祭神が記されています。鬱蒼と木々が生い茂る静かな境内。神様たちが宿る氏神様として、地元の人たちに親しまれています。

四日市あすなろう鉄道で行く小さな旅も、ここで終了。また電車に乗って、車窓の風景を楽しみながら帰ります。



芭蕉が落馬したことを詠んだ芭蕉の句碑



坂の途中に史跡がある杖衝坂